1．日本語教育部門

1．日本語教育部門の沿革と実績

1.1　日本語教育部門の沿革

日本語教育部門（以下、本部門）は 1996 年に国際教育センターの前身である留学生センターの一部門として設置され、本学で学ぶ留学生の日本語教育を一手に担っている。特に、2010 年の国際教育センターへの改組以降、留学生の増加・多様化や留学生や学内の様々なニーズに対応するため、日本語教育プログラムの整備・拡充を進めてきた。

2019 年度、日本語科目の担当は専任教員 4 名（うち 1 名は研究休暇取得）、特任教員 3 名、非常勤教員 16 名であった。

表 1：日本語教育部門沿革

1996 年度：	留学生センター設置
	全学共通教育科目（中級～上級）に加え、日本語研修コース（研究留学生対象の日本語予備教育）を開設
2000 年度：	国際研究館内に移転
2004 年度：	日本語・日本文化研修留学生プログラム開設
2005 年度：	言語社会研究科内に設置された「日本語教育学位取得プログラム」に参画
2010 年度：	国際教育センターに改組
	日本語研修コースを国際交流科目（HGP: Hitotsubashi Grobal Education Program）の一部に位置づけ、特任講師によるコーディネーション開始
	日本語科目のレベル別技能別編成の拡充・整備
2011～2012 年度：	大学戦略推進経費を得て、社会科学の専門語彙・表現教育のための教材を開発
2012 年度：	大学院経営戦略研究科経営学修士コース（留学生プログラム）の日本語教育支援を開始
	国際企業戦略研究科の日本語教育プログラム開設を支援
2017 年度：	4 学期制開始に伴う日本語科目のレベル編成の見直し・科目の拡充
2018 年度：	特任講師を 2 名体制に拡充
	国際教育交流センターに改組

1.2　日本語教育部門の実績

(1) 初級教育による成果

日本語初級レベルの留学生にたいする国際交流科目による集中教育は、一定の成果を上げている。日本語がほとんどできずに来日した大使館推薦・大学推薦の国費研究留学生が、本センターで初級集中教育を受講後、全学共通教育・学部教育科目の日本語科目で実力をつけ、各研究科の入試に合格し、修士号や博士号の取得に至ったケースも少なくない。ま

た、留学生センターから国際教育センターへの改組後、交流学生も、初級集中教育の中心的存在として短期間で日本語力を向上させている。初級集中教育によるこうした成果の背景には、国際教育センターへの改組によるスタッフの加入が大きい。2010 年 4 月に特任講師が着任して以降、国際交流科目初級日本語コースのコーディネーターの業務を担当したことで、コースの安定的な運営が可能になっている。

⑵ 学内共同利用機関としての役割の増大

本部門は、学内の日本語教育を一手に引き受けているが、その役割も多様化している。日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受け入れや言語社会研究科での日本語教育者養成もその一つである。加えて 2012 年度から、大学院経営戦略研究科経営学修士コース（留学生プログラム）の日本語教育支援を開始し、さらに春夏学期に週 8 コマの日本語科目を提供し、そのコーディネートを担当している。さらに、国際企業戦略研究科での日本語教育プログラムの開設を支援し、2012 年度後半からプログラムが開始・運営されている。

⑶ 社会科学の日本語の研究・教材開発

「社会科学の総合大学」である本学にあり、留学生が社会科学の専門分野を日本語で学習・研究できるよう、社会科学の日本語教育に力を入れている。本部門では留学生センター発足当時から学内予算等を得て教材開発を続けている。『一橋大学学術日本語シリーズ』第 1 巻～12 巻を刊行したほか、2011～12 年度には大学戦略推進経費の支援を得、「社会科学の専門語彙・表現教育のための教材開発」を行い、2012 年度末にはその成果を4 冊の教材として刊行した。これまで開発した教材の一部は、『日本法への招待』（2004、有斐閣）、『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』（2005、スリーエーネットワーク）、『留学生のためのジャーナリズムの日本語』（2015、スリーエーネットワーク）として出版されている。

２．日本語教育プログラムで学ぶ留学生

本部門では、全学の留学生に向けた日本語教育プログラムを行っている。日本語教育プログラムで学ぶ留学生のカテゴリーは大きく分けて以下の 5 つである。

⑴ 交換留学生（交流学生）：交流協定校から派遣される学部レベルおよび大学院レベルの半年から 1 年の短期留学生

⑵ 大学院研究生（研究生）：大使館推薦・大学推薦の国費留学生および一定の条件を満たした私費留学生

⑶ 学部正規学生（学部生）：各学部に所属する学部留学生

⑷ 大学院正規学生（大学院生）：各研究科に所属する修士・博士の大学院留学生

⑸ 日本語・日本文化研修留学生（日研生）：海外の大学の学部に所属し、日本語・日本

文化を主専攻とする1年間の国費短期留学生

学生の履修傾向は以下のようにまとめられる。

交流学生のうち、派遣元大学で日本語・日本文化等が専門の学生は日本語科目を中心に履修し、その他の学生は自身の専門科目（英語で開講される科目も含む）の履修と並行して日本語科目を履修している。

研究生のうち、日本語が初・中級レベルの研究生は日本語科目を集中して履修し、上級レベルの研究生は専門日本語やアカデミック・ジャパニーズを扱う日本語科目を中心に履修する。大学院合格を目指して日本語科目を履修する学生が多い。

学部生のうち、1年生は「第二外国語」または「外国語科目（選択）」として日本語Ⅰ・Ⅱを履修することができ、主に国費留学生が履修している。その他、1～3年生は本プログラム最上位の上級後半レベルの日本語科目等をニーズに合わせて履修し、学生生活を送るうえで必要な日本語を学んでいる。

大学院生は主に専門日本語やアカデミック・ジャパニーズを扱う日本語科目を中心に履修している。

日研生は他のカテゴリーの留学生とともに上級レベルの日本語科目を履修しつつ、日本語・日本文化研修留学生プログラムにおいて、日本語・日本文化研修生修了レポート執筆に取り組んでいる。

また、留学生以外にも外国人講師や外国人研究員等の聴講希望者も近年増加しており、積極的に受け入れを行っている。

３．日本語教育プログラムの開講科目

本部門の担当する日本語教育の授業には、次のようなカテゴリーがある。これらの日本語の科目はすべて単位が認定される科目であり、本学の日本語教育の一つの特徴となっている。

(1)「国際交流科目」としての日本語科目（初級～中上級）
(2)「全学共通教育科目」としての日本語科目（中級～上級）
(3)「学部教育科目」としての日本語科目（中上級～上級）
(4)「大学院科目」としての日本語科目（上級）
(5) 日本語・日本文化研修留学生プログラム（上級）
(6) 大学院経営戦略研究科経営学修士コース（留学生プログラム）の日本語科目（上級）

以下、6 つのカテゴリーごとに担当者、開講コマ数、授業内容・到達目標について概略を述べる。併せて、留学生だけでなく日本人学生を含む学部生一般向けの開講科目についても述べる。

(1)「国際交流科目」としての日本語科目

「国際交流科目」としての日本語科目は、1 週間に複数コマ開講される総合科目であり、学生はそれらをセットで履修することにより、日本語を集中的に学ぶことができる。学部生以外の留学生がプレイスメントテストや初級オリエンテーションの結果をもとにそれぞれのレベルとニーズにあわせて選択、履修している。

表 2 :「国際交流科目」としての日本語科目

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
Introduction to Japanese Language A／B【入門】	A **松井**・早川	春夏／秋冬 週 3 コマ×14 週	日本語学習の経験が全くない学生、または学習経験が非常に少ない学生を対象に、日本語の読む、書く、聞く、話す、の 4 技能を伸ばすことを目的としたコースである。授業では、学生が日常生活で出会う場面を想定した実践的な運用練習を行うことにより、日本に来て間もない学生がすぐにクラス外で日本語を使ってコミュニケーションできるようになることを目指す。Introduction to Japanese Language A と Introduction to Japanese Language B は春夏学期・秋冬学期ともに 2 コース並行開講である。
	B **早川**・松井		
	A 太田・柳田		
	B **早川**・杉本		
Basic Japanese I【初級前半】	**早川** 田中 福岡 杉本	春夏／秋冬 週 5 コマ×14 週	日本語を勉強したことのない学生、あるいは少ししか学習したことのない学生を対象とする。日本での日常生活を送るために必要なレベルの日本語の能力を養成することを目的とする。とくに、日本での日常生活を送るために必要なかな、初歩的な文法、語彙、漢字を学び、読む、聞く、話す、書くの四技能の総合的な能力を養成することを目的とする。
	早川 田中 杉本 福岡		
Basic Japanese II【初級後半】	**松井** 田中 福岡 杉本	春夏／秋冬 週 5 コマ×14 週	大学で 150 時間程度日本語を学習し、平仮名と片仮名、150 字程度の漢字、初級文法の前半レベルをマスターした学生を対象とする。日本での学生生活を送るために必要な初級後半の文法、語彙、漢字を学び、読む、聞く、話す、書くの日本語の総合的な能力を養成することを目的とする。
	ツォイ 田中 鈴木 早川		
Intermediate Japanese IA【中級前半】	松井	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	初級文型の総復習と中級前半レベルの文型の導入を行い、実際に使えるようになるよう指導する。
	ツォイ		
Intermediate Japanese IB【中級前半】	烏	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	初級文型及び中級前半レベルの文型を使い、口頭表現の基礎力を養成する。
	烏		
Intermediate Japanese IC【中級前半】	烏	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	初級漢字・語彙の総復習と、中級前半レベルの漢字・語彙の導入及び、文章の読解を指導する。
	烏		
Intermediate Japanese II【中級】	**早川**・松井	春夏／秋冬 週 2 コマ×14 週	中級レベルの文法、語彙を学び、読む、聞く、話す、書くの総合的な能力の伸長を目指す。
	ツォイ・早川		
Pre-advanced Japanese【中上級】	**早川**・村上	春夏／秋冬 週 2 コマ×14 週	中上級レベルの文法、語彙を学び、読む、聞く、話す、書くの総合的な能力の伸長を目指す。
	早川・村上		

（担当者欄の上段が春夏学期、下段が秋冬学期、【　】は日本語レベル／ゴシックはコーディネーター）

⑵「全学共通教育科目」としての日本語科目

「全学共通教育科目」としての日本語科目は、基本的に週 1 回×14 週（または週 2 回×7 週）、技能別に開講される科目である。学部生以外の留学生はプレイスメントテストの結果をもとにそれぞれのレベルとニーズにあわせて選択、履修している。

学部生は上級後半レベル（表 3 の「日本語上級（読解）II」以降）の科目をそれぞれのニーズにあわせて選択、履修している。また、表 3 の「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」に限っては学部生（1 年生）対象の「第二外国語」または「外国語科目（選択）」として開講されている科目である。

表 3 :「全学共通教育科目」としての日本語科目

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
日本語中級（読解）	早川 ツォイ	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	初級・中級レベルの文法と語彙を使って書かれた文章を読み、読解の基礎力を養成する。
日本語中級（文章表現）	柳田 ツォイ	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	初級・中級レベルの文法と語彙を使って、文章表現の基礎力を養成する。
日本語中級（口頭表現）	宮部 宮部	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	初級・中級レベルの文法と語彙を使って、口頭表現の基礎力を養成する。
日本語中級（漢字語彙）	佐野 ツォイ	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	中級レベルの漢字・語彙の基礎力を養成する。
日本語中上級（読解）	高 庵	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	中上級レベルの文法と語彙を使って書かれた長めの文章を読み、読解の応用力を養成する。
日本語中上級（文章表現）	幸田 幸田	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	中上級レベルの文法と語彙を使って、文章表現の応用力を養成する。
日本語中上級（口頭表現）	柳田 柳田	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	中上級レベルの文法と語彙を使って、口頭表現の応用力を養成する。
日本語中上級（漢字語彙）	今村 今村	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	中上級レベルの漢字・語彙の応用力を養成する。
日本語中上級（文法）	太田 庵	春／秋 週 2 コマ×7 週	中上級レベルで適切な運用を行うために必要な文法知識を整理する。
日本語上級（読解）I	高 五味	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	文章の難易度や読む目的に合わせて、適切に内容を把握できるようになるためのトレーニングを行う。
日本語上級（文章表現）I	松井 ツォイ	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	テーマにそくした内容の文章を、適切な文体で書けるようになるためのトレーニングを行う。
日本語上級（口頭表現）I	村上 村上	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	内容を正確に伝えることに加え、聞き手に配慮した話し方ができるようになるためのトレーニングを行う。
日本語上級（文法）	庵 太田	夏／冬 週 2 コマ×7 週	上級レベルで適切な運用を行うために必要な文法知識を整理する。
日本語上級（読解）II	庵	春夏 週 1 コマ×14 週	社会科学の専門書を読むのに必要な文法や語彙の知識を踏まえて、専門書を読むために必要なトレーニングを行う。

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
日本語上級（速読）	太田 今村	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	新聞・雑誌・書籍を素材として、生の日本語から目的に応じて必要な情報を速く深く読み取るためのトレーニングを行う。
日本語上級（近代文語文講読）	庵	秋冬 週 1 コマ×14 週	明治以降の文語文を読むために必要な文法や語彙の知識を踏まえて、文語文を読むために必要なトレーニングを行う。
日本語上級（文章表現）II	安部 安部	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	文章の目的（内容、読み手など）に合わせて適切な文章を書けるようになるために必要なトレーニングを行う。
日本語上級（学術文章表現）	佐野 高	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	アカデミックな場面で必要とされる、レポート・論文を書くのに必要な文章表現技術を身につけるためのトレーニングを行う。
日本語上級（口頭表現）II	三枝 三枝	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	大学生活の様々な場面で必要なコミュニケーション・スキルを身につけるためのトレーニングを行う。
日本語上級（学術口頭表現）	柳田 柳田	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	アカデミックな場面で必要とされるプレゼンテーション・スキルなどを身に付けるためのトレーニングを行う。
外国人留学生のための日本事情 A	2019 年度 休講	春夏 週 1 コマ×14 週	日本の近現代の文学作品を読み、日本文学に関する知識と読解能力を身につけるためのトレーニングを行う。
外国人留学生のための日本事情 B	庵	秋冬 週 1 コマ×14 週	日本の中世末期から現代までの歴史を概観し、日本史と日本事情に関する知識を身につけるためのトレーニングを行う。
日本語 I	庵／早川	春夏 週 2 コマ×14 週	【学部正規留学生のみ】社会科学の勉学に必要な日本語能力を総合的に養成する。
日本語 II	太田／柳田	秋冬 週 2 コマ×14 週	【学部正規留学生のみ】社会科学の勉学に必要な日本語能力を総合的に養成する。

(3)「学部教育科目」としての日本語科目

「学部教育科目」としての日本語科目は、基本的に週 1 回×14 週（週 2 回×7 週）開講される専門日本語を中心に扱う科目である。学部教育科目ではあるが、学部生以外にもプレイスメントテストで該当レベルと判定されたすべてのカテゴリーの留学生が対象である。

表 4 :「学部教育科目」としての日本語科目

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
経済の日本語中上級	山田 山田	春／秋 週 2 コマ×7 週	中上級レベルの記事の講読・テレビ番組の視聴を通じて、経済・ビジネス分野の日本語・日本についての知識を身につける。
経済の日本語上級 I	山田 山田	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	上級レベルの記事の講読・テレビ番組の視聴を通じて、経済・ビジネス分野の日本語・日本についての知識を身につける。
経済の日本語上級 II	今村 今村	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	日本経済新聞の記事や経済学の教科書を使用し、語彙・表現の細かなニュアンスに表れる筆者の視点や価値判断を読み取る。

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
法の日本語	三枝	秋冬 週 1 コマ×14 週	法律や法律学に関する文章を読むために必要なトレーニングを行う。

(4)「大学院科目」としての日本語科目

「大学院科目」としての日本語科目は、大学院生が履修可能な週 1 回×14 週開講される高度なアカデミック・ジャパニーズを中心に扱う科目である。

表 5：「大学院科目」としての日本語科目

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
経済学研究の日本語	今村	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	経済学の専門文献の文面に表れる筆者の視点や立場を読み取る。また専門的な内容を論理的でわかりやすく発表する技術を学ぶ。
専門日本語表現技法 I	志賀	春夏 週 1 コマ×14 週	言語・社会・文化を中心としたテーマでレポート・論文を執筆するために必要なトレーニングを行う。
専門日本語表現技法 IIA	柳田	春夏 週 1 コマ×14 週	言語・社会・文化を中心としたテーマでの口頭発表を行うために必要なトレーニングを行う。
専門日本語表現技法 IIB	柳田	秋冬 週 1 コマ×14 週	言語・社会・文化を中心としたテーマでの口頭発表を行うために必要なトレーニングを行う。

(5) 日本語・日本文化研修留学生プログラム

文部科学省の日本語・日本文化研修留学生プログラムにより来日した国費学部留学生を対象に、日本語・日本文化に対する理解を深め、自身のテーマを掘り下げることを目的とする。研修生は、各自の希望にあわせて日本語科目、全学共通教育科目、学部教育科目を履修しながら、各自のテーマで修了レポートの作成を行う。

表 6：日本語・日本文化研修留学生プログラム

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
Lecture for MEXT Japanese Studies Students Ⅰ	太田	秋冬 週 1 コマ×14 週	日本語・日本文化研修生修了レポート執筆の準備を行う。
Lecture for MEXT Japanese Studies Students Ⅱ	太田	春夏 週 1 コマ×14 週	日本語・日本文化研修生修了レポート執筆の準備を行う。
Seminar for MEXT Japanese Studies Students A	休講	秋冬 週 1 コマ×14 週	日本語・日本文化に関する各自のテーマを見つけ、掘り下げるための活動型授業を行う。
Seminar for MEXT Japanese Studies Students B	庵	春夏 週 1 コマ×14 週	日本語・日本文化に関する各自のテーマをさらに掘り下げるための活動型授業を行う。

2018 年度は、大使館推薦の学生 9 名、大学推薦の学生 1 名の計 10 名が本プログラムに参加し、2019 年 8 月に、修了レポートを提出の上、コースを修了した。2019 年度は 2019 年 9 月より大使館推薦の学生 4 名が本プログラムに参加している。コーディネーターは太田陽子。如水会鎌倉支部主催の鎌倉ツアー、国立市 NPO による着物体験に加え、今年度から新たに立川市地域文化振興財団による「ファーレ立川アートツアー&マンガワークショップ」が開催され、本プログラムの日研生を中心に、本学交流学生、近隣 3 大学の留学生を交えた交流の機会となった。

(6) 大学院経営戦略研究科経営学修士コース（留学生プログラム）の日本語科目

大学院経営戦略研究科経営学修士コース（留学生プログラム）の日本語科目は、大学院経営戦略研究科経営学修士コースに入学した新入生（留学生）が、半年後に専門教育を日本人と同様に受講できるようにするための、春夏学期開講の日本語集中教育科目群である（表 7)。また、大学院経営戦略研究科研究者養成コースの日本語科目は、研究者養成コースに在籍する留学生の論文執筆及び読解力強化のために 2018 年度に設置された科目群である（表 8)。コーディネーターは西谷まり。

表 7：大学院経営戦略研究科経営学修士コース（留学生プログラム）日本語科目

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
日本語集中講義（留学生プログラム）A	山田	春夏 週 1 コマ×14 週	コーポレートファイナンスの分野についての基本的な知識を身につけ、各自の研究を進める上で必要となる専門文献の内容を正確に把握する力を養成する。
日本語集中講義（留学生プログラム）B	山田	春夏 週 1 コマ×14 週	『日本経済新聞』『日経ビジネス』など、一般に広く読まれる時事的な経済関連の文章を素材に、商学・経済学の専門語彙・表現を身につける。
日本語集中講義（留学生プログラム）C	胡	春夏 週 1 コマ×14 週	受講者の研究計画の作成、レポートなどの論述的文章を書く力、そして書いたものを推敲する力を身につける。
日本語集中講義（留学生プログラム）D	胡	春夏 週 1 コマ×14 週	産業革命以後の経営史について，イギリス，アメリカ，日本と，歴史の流れを追いながら，その基本的な事実を理解するとともに，特有な用語・言い回し，日本語表現を習得することを目指す。
日本語集中講義（留学生プログラム）E	志賀	春夏 週 1 コマ×14 週	『日本経済新聞』『日経ビジネス』など、一般に広く読まれる時事的な経済・経営関連の文章を素材として、素早く大意や情報をつかむ力を身につける。
日本語集中講義（留学生プログラム）F	志賀	春夏 週 1 コマ×14 週	日本経済、企業、ビジネスといったテーマのビデオ映像や聴解教材を視聴することを通し、経営管理研究科の授業にスムーズに参加できる聴解力を総合的に育成する。
日本語集中講義（留学生プログラム）G	鈴木	春夏 週 1 コマ×14 週	組織デザインに関する文献を読むために必要となるアカデミックな読解力を、文献の精読を通して養成する。

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
日本語集中講義 （留学生プログラム）H	鈴木	春夏 週 1 コマ×14 週	受講者一人ひとりが、自身の研究分野についての研究計画書やレポートを、論文にふさわしい文体と文章構成で書けるようになる知識を実践を通して身につける。

表 8：大学院経営戦略研究科研究者養成コース日本語科目

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
日本語ライティングⅠ	宮部	春 週 1 コマ×7 週	学術論文を書くための基礎を養う。学術的な語彙や表現の使用、読み手を意識した文章構成、論理的な文章展開について学ぶ。
日本語ライティングⅡ	宮部	夏 週 1 コマ×7 週	学術論文を書くための基礎を養う。学術的な語彙や表現の使用、読み手を意識した文章構成、論理的な文章展開について学ぶ。
日本語リーディングⅠ	宮部	秋 週 1 コマ×7 週	新聞やビジネス雑誌の記事を読み、適格に要点・情報をつかむことができることを目的とする。
日本語リーディングⅡ	宮部	冬 週 1 コマ×7 週	新聞やビジネス雑誌の記事を読み、適格に要点・情報をつかむことができることを目的とする。

なお、日本語教育部門の教員は、日本語科目のほか、留学生を含む学部生一般を対象とした全学共通教育科目である「現代日本語論」「日本語研究入門」「教養ゼミナール」、学部3、4年生を対象とした「共通ゼミナール」も担当している。

表 9：学部生対象の日本語関係科目

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
現代日本語論	庵・太田 ・柳田	秋冬 週 1 コマ×14 週	文法、表記、表現選択などを意識化、対象化して学ぶことによって、言語技術の向上を目指す。合わせて、「やさしい日本語」の理念について学ぶ。
日本語研究入門	庵	春夏 週 1 コマ×14 週	母語話者にとっては生得的な、留学生にとっては習得した日本語を、対象化し、そこに存在する「しくみ」について理解することを目指す。
教養ゼミナール	今村	春夏 週 1 コマ×14 週	日本語教育学や日本語学の知見から出発して、メディアの具体的な誘導手法に触れることを通して、メディアを批判的・主体的に読み解くための能力を身につける。
共通ゼミナール	庵	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	【学部 3，4 年生】日本語関連の内容について卒業論文をための訓練を行う。
共通ゼミナール	今村	春夏／秋冬 週 1 コマ×14 週	【学部 3，4 年生および日研生】学部生については、日本語文法および日本語教育の文献を読み、討議するが、卒論は書かない副ゼミのみ開講。日研生においては、日本語文法および日本語教育に加え、各自の専門分野における日本語の資料を比較検討し、レポート作成の指導をする。

４．2019 年度日本語科目履修登録者数

2019 年度に開講した日本語科目の履修登録者数は表 10 のとおりである。春夏学期の履修登録者は合計 482 名、秋冬学期の履修登録者は合計 474 名であった。その他、外国人研究員、教員等も聴講生として若干名受講した。

表 10：2019 年度日本語科目履修者数一覧

科目名	春夏学期	秋冬学期
Introduction to Japanese Language A	1	5
Introduction to Japanese Language B	1	4
Basic Japanese Ⅰ	12	12
Basic Japanese Ⅱ	6	16
Intermediate Japanese ⅠA	18	9
Intermediate Japanese ⅠB	16	8
Intermediate Japanese ⅠC	15	9
Intermediate Japanese Ⅱ	6	14
日本語中級（読解）	8	13
日本語中級（文章表現）	10	16
日本語中級（口頭表現）	12	20
日本語中級（漢字語彙）	4	15
Pre-Advanced Japanese	9	4
日本語中上級（読解）	10	9
日本語中上級（文章表現）	8	7
日本語中上級（口頭表現）	18	11
日本語中上級（漢字語彙）	11	9
日本語中上級（文法）	21	12
経済の日本語中上級	8	6
日本語上級（読解）Ⅰ	13	15
日本語上級（文章表現）Ⅰ	16	10
日本語上級（口頭表現）Ⅰ	19	11
日本語上級（文法）	24	13
Lecture for MEXT Japanese Studies Students Ⅱ	10	—
Lecture for MEXT Japanese Studies Students Ⅰ	—	4
Seminar for MEXT Japanese Studies Students B	8	—
Seminar for MEXT Japanese Studies Students A	—	—
経済の日本語上級Ⅰ	17	33
日本語上級（読解）Ⅱ	31	—
日本語上級（速読）	20	25
日本語上級（近代文語文講読）	—	17
日本語上級（文章表現）Ⅱ	11	16
日本語上級（学術文章表現）	31	9
日本語上級（口頭表現）Ⅱ	22	21
日本語上級（学術口頭表現）	28	15
経済の日本語上級Ⅱ	21	13
経済学研究の日本語	0	0
法の日本語	—	30

科目名	春夏学期	秋冬学期
外国人留学生のための日本事情 A	—	—
外国人留学生のための日本事情 B	—	28
日本語 I	17	—
日本語 II	—	15
合計	482	474

*「—」は当該学期に開設なし

*日本語上級（学術口頭表現）・専門日本語表現技法 IIA・IIB は全学共通教育科目と大学院科目同時開講の科目である。

５．2019 年度の取り組み

2019 年度は、2016 年 4 月から 3 年半、HGP 科目のコーディネーターおよび日本語教育部門の運営にご尽力くださった松井特任講師が春夏学期をもって退職された。秋冬学期からツォイ特任講師を新たにスタッフとして迎え、引き続き、HGP 科目のコーディネーターが 2 名体制での運営となった。このため、HGP 科目の運営は安定し、より学生が学びやすい環境が整備されつつある。

また、2019 年度受け入れの日研生数は減少したものの、学外の機関との連携を深め、さまざまな経験の機会を提供するなど、プログラムの充実を進めた。

その他の科目群についても、留学生の満足度の高い授業を提供できた。今後も履修者数の推移等をもとに留学生のニーズに応える科目構成を検討していきたい。

（文責：柳田　直美）